

必要のない情報は可能な限り削減が図られているので、多くの医療機関にベースアップ評価料を算定していただきたい。

総会の最後に猿木和久 全国有床診療所協議会理事長より「本日は活発な議論ありがとうございます。全国ブロック会の中で九州、関東甲信越とこの中国四国ブロック会が非常に活発に活動していただいている。今後、有床診療所がどう変わっていくかが重要であり、究極のかかりつけ医であり、人員配置等で柔軟性を併せ持つ有床診療所は地域に欠かせない医療施設である。課題解決型の全国有床診療所協議会にしていきたいと考え

ており、会員の方々から要望等も上げていただきたと考えている。若返りを図りつつ、日本医師会とも協働し、頑張っていく所存である。それと、自民党の議連も大事な組織であり、今回の改定率+3.09%となったのも高市総理誕生が大きな要因であり、今回の衆議院選挙での自民党への支援をお願いしたい」との特別発言をいただき、総会を終了した。

その後、ホテルグランヴィア岡山に移動し、講演者も含めて多くの方に参加していただき、和やかな交流会が開催された。

閑話求題

笑う門に医師来る^{きた}
岩国市 河郷 忍

院長を息子に譲り、時間が取れるようになりました。何をしようか探していると、大阪の心齋橋大学を見つけました。藤本義一先生が創立した、作家養成スクールです。その中に、落語作家入門の講座を発見し、申し込みました。月2回の授業で、オンライン講義、ハイブリッド講義もあります。医療系の新作落語を作っていますが、難しく、オチが浮かびません。講師の今井洋之先生とご縁ができ、私の訪問診療の落語を作っていただきました。令和7年5月に取材にこられ、往診先の家族に取材をされ、令和7年11月末に、自宅の2階でお披露目しました。

在宅医療にかかわりながら、CD「往診ハラショー」・絵本「命のほころび治します」そして、今回の落語「笑う門に医師来る^{きた}」ができました。

在宅医療はちょっと大変ですが、楽しく仕事をするようにしています。

今井先生の作られたプレスリリースです。

「何十年も地域医療を支えてきた医師の実話が新作落語に笑いで伝える、地域に寄り添う医療のかたち」

自動車があれば通院が困難な郊外の町で、何十年にもわたって高齢者の訪問診療に取り組んできた一人の医師・河郷 忍。雪の日も真夏の炎天下も車で各家庭を回り、在宅診療や看取りに立ち会ってきました。この長年にわたり地域の医療を支え続けた医師の姿をもとに新作落語が誕生しました。河郷 忍 医師の診療に心打たれた落語作家が「社会問題になっている過疎地域の医療や訪問診療の現実をもっと多くの人に知ってほしい」と現場の取材。人々の暮らしや、医師と患者の間に生まれる心の交流を笑いと暖かさに満ちた物語を描き上げました。

落語家・桂福丸さんによる訪問診療を描いた落語「笑う門に医師来る^{きた}」

講師・旭堂小南陵さんによるケアマネジャーの仕事を描いた講談「ケアマネジャー奮闘記」

河郷診療所のホームページを検索して、落語会をクリックして下さい。

落語・講談が見られますので。